

Welcome to ... Grant County!

第5号 グラント郡の歴史

Jan. 2021

発行 豊山町姉妹地域国際交流サポーター事務局（豊山町総務課）

豊山町の姉妹地域 米国ワシントン州グラント郡についてお知らせする「Welcome to... Grant County!」第5号では、グラント郡の歴史についてお伝えします。

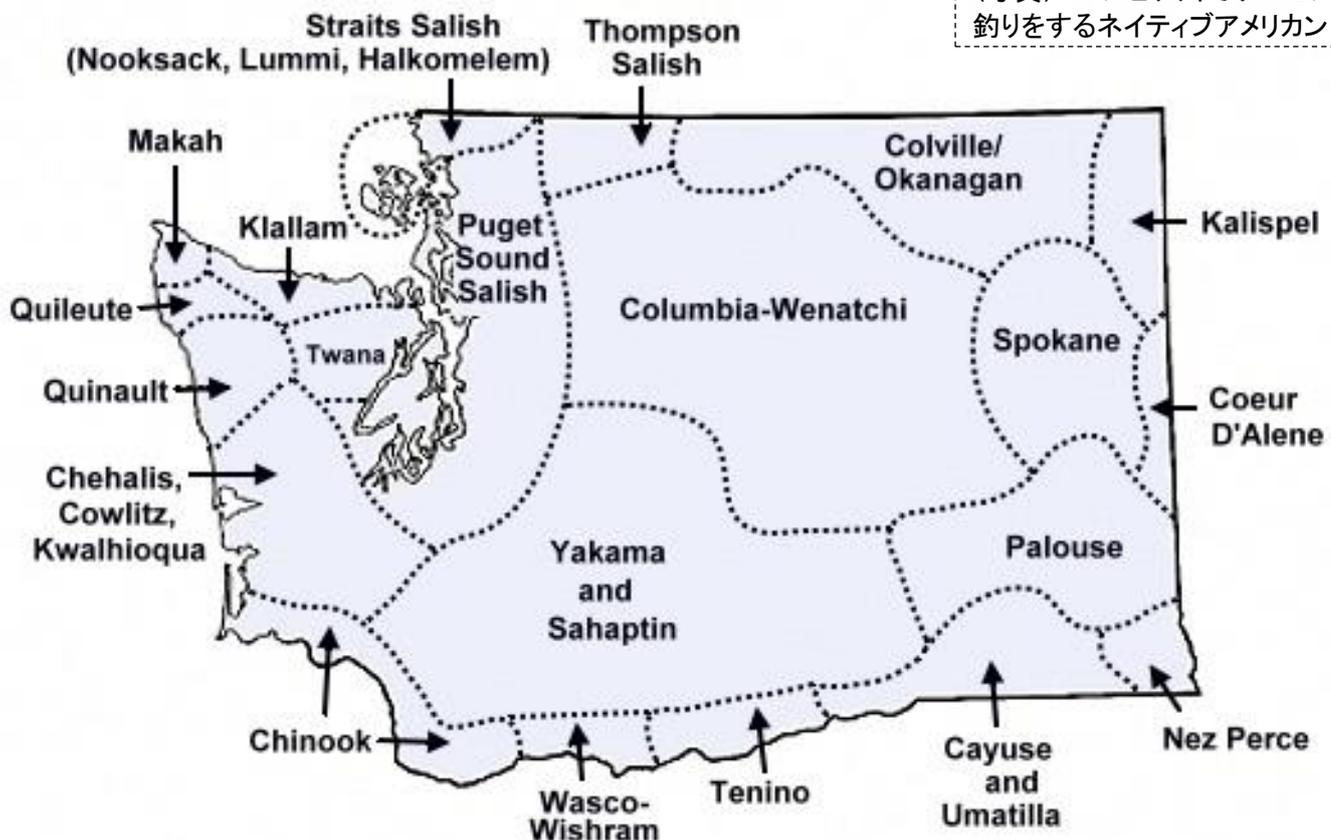
<グラント郡・イースタンワシントンの歴史>

イースタンワシントンはもともと、様々なネイティブアメリカンの部族たちが生活する土地でした。今グラント郡になっているところは、コロンビア、ウェナチー族、オカナガン部族などの土地でした。遊牧民族で、農業ではなく、釣り、狩り、採集をして生きてきました。

18世紀に、白人の入植者がワシントン州に着いたころから、紛争が始まりました。ある視点から見たら、アメリカの歴史はネイティブアメリカンの地を奪ってしまう歴史です。今は、残念なことに、ネイティブアメリカンが居住する範囲はとても小さくなり、伝統的な文化と言語が少しずつ失われつつあります。今の法律と制度では、伝統的な遊牧民族の生活をするのが困難です。



(写真)コロンビア川でサーモンの釣りをするネイティブアメリカン



(地図)ワシントン州にいたネイティブアメリカンの部族

<モーゼス長の夢>

グラント郡のモーゼスレイク市は、モーゼス長(1829-1899)というコロンビア人にちなんで名づけられました。ネイティブアメリカンの長は、部族の生活を守るために紛争を起こすことが大半でしたが、モーゼス長は紛争をしませんでした。外交を得意とし、自分の部族の故郷も含めネイティブアメリカンのために広い居住地を作ろうと折衝を続けました。アメリカの大統領にも会いました。

しかし、残念ながら、モーゼス長の夢は叶いませんでした。最終的に、コロンビア部族は他の部族とともに、部族の故郷とは異なる小さい居住地に移されてしまいました。モーゼス長の後年には、モーゼスレイクの地はすべて部族の土地ではなくなり、自分でカモの卵を採集しに行くこともできなくなりました。



(写真)モーゼス長



モーゼスレイクにあるモーゼス長を重んじる壁画、
"A Man of Peace" 画家:Patricia Jensen



白人の入植者、ワシントン州、18世紀

(動画)現在のワシントン州のネイティブアメリカンはできるだけ伝統的な習慣を続けています

<https://www.youtube.com/watch?v=yEKF8e0ndRU>

<グラント郡の農業が栄えるまで>

ワシントンは1889年に州になり、1909年にグラント郡はカウnty(郡)になりました。その時の人口はわずか8,700人でした。グラント郡にいた最初の白人の入植者は牧場を持ちました。牛を飼うことはできましたが、雨が少なく、農場は無理でした。時が経ち、鉄道がグラント郡に来たため、新しい入植者は農業を試みましたが、なかなか困難でした。

1933年にグランド・クーリー・ダム(Grand Coulee Dam)の建設が始まりました。水を溜めて灌漑に使うこと、電力を作ることの2つを目標としていました。ダムが完成してようやく大規模農業が可能になりました。1950年代に、最初の食品加工産業がグラント郡に来て、経済的に豊かになっていきました。

1966年に空軍が使っていた空港は民間利用に入れ替えて、グラント郡国際空港になりました。農業、空港、安い電力のおかげで、グラント郡は今発展しています。



(写真)グラント郡国際空港